

# 平成21年度 島根大学「萌芽研究部門」研究プロジェクト 計画書

1. プロジェクト名称	歴史・文化資源を活かした「地域まるごとミュージアム」化実践プロジェクト ～島根大学旧奥谷宿舎を取り巻く「ひと・まち・なりわい」をキーワードにして～					
	(英訳名)	Project to make "Field museum" in Matsue city				
2. プロジェクトリーダー	所属	ミュージアム	職名	准教授	氏名	会下和宏
	現在の専門	博物館学			学位	学士(文学)
<b>3. プロジェクトの概要</b> ①本研究プロジェクトで何をどこまで明らかにするか、②国際的あるいは専門的な視野からプロジェクトの必要性・重要性・ユニークな点、③島根大学で行う意義・大学の発展にとって期待される効果、について簡潔に記入してください。 ①島根大学では、松江市奥谷町に残る国登録文化財「島根大学旧奥谷宿舎(旧制松江高等学校外国人宿舎)」を修復し、サテライトミュージアム、生涯学習施設、地域市民・観光客・学生・留学生が集う交流拠点として活用していくことを構想している。この一帯は、本学に近いうえ、城下町の街並みが良く残り、歴史・文化資源も豊富に存在していることから、旧奥谷宿舎を核にして、周辺を有機的・面的に結び活用した「地域まるごとミュージアム」化をはかることも計画されている。しかし、こうした遠大な構想を実現していくためには、各専門研究者が協業し、 <b>(i)ミュージアム・コンテンツの蓄積</b> (歴史・文化資源の発掘収集・学術研究)、 <b>(ii)フィールド・ミュージアム化やミュージアム・マネジメントのノウハウ蓄積</b> (博物館経営・行財政・都市政策の調査研究、行政・市民との連携等)、 <b>(iii)アウトプット・実践</b> によって進めていくことが欠かせない。 そこで本プロジェクトでは、「ひと・まち・なりわい」を分析概念に、空間的には旧奥谷宿舎がある松江市城北地区を核にした出雲地域を、時代的には近世・近代を主たる対象とし、以下の3項目を具体的なテーマにして取り組むことにした。 <b>A. 旧奥谷宿舎(建築・居住者)・旧制松江高校(学校史・人物)等に関する調査研究と資源化(i)</b> <b>B. 旧奥谷宿舎周辺～松江・出雲の地域資源(歴史・文学等)に関する調査研究と資源化(i)</b> <b>C. 旧奥谷宿舎を核にした「地域まるごとミュージアム化」「まちづくり」に関する調査研究と実践(ii)(iii)</b> ②地域のシンクタンクである大学が主導して歴史・文化資源を学術研究・資源化し、さらに自治体・行政機関とも連携しながら大学ミュージアムを通じて地域再生・活性化に貢献しようとする取り組みは、全国的にも先見的で、きわめてユニークである。従来、「経済」と対立的に捉えられてきた「歴史・文化」を「まちづくり」に活かしていくことは、今後のわが国における文化行政、都市政策においても非常に重要な試金石となる。また、こうした「地域学」研究とその活用の取組は、国内外の他地域においても発展的に応用できるモデルとなりうる。 ③「地域まるごとミュージアム」化は、従来の大学に対してイメージされてきた「象牙の塔」から脱却し、地域に溶け込んだ大学の創造、地域に根ざした教育研究の振興につながる。まさに、「人とともに・地域とともに」という本学が目指す理念に沿うものである。						
<b>4. 本学の中期目標・計画または大学憲章アクションプランとの関係</b> 中期計画「地域社会の課題に対応し、産学官が連携して学術的・文化的・経済的価値を創出する研究を推進する」に合致。						
<b>5. 平成20年度の主な成果</b> 特に重要なものを簡条書きにしてください。 <b>A 旧奥谷宿舎・旧制松江高校の調査研究</b> ・宿舎に暮らしたブラーゲ、カルシュ、アロンスタイン博士についての調査。旧制松江高校出身の永井隆について調査。 ・1920～1949年『大阪朝日新聞(山陰版・島根版)』の旧制松江高校～島根大学に関する記事をすべて検索・リスト化。 ・足立文庫所蔵本をリスト化し、整理完了。 <b>B 松江・出雲の地域資源(歴史・文学等)の調査研究</b> ・「初代松江市長・福岡世徳文書」翻刻研究会を4月より月例会で開催し、翻刻作業を実施。 ・松江古絵図、古写真のデジタル化をはじめ、資料収集、調査を実施。 ・『雲陽秘事記』『大森文庫』『松江竹枝』『出雲国風土記抄』『熊谷家文書』『田部家文書』『佐々田懋日記』『島根県魚漁図解』等、地域に根ざした様々な貴重史料を発掘・整理・写真撮影・論文化。附属図書館のデジタルアーカイブに蓄積。 <b>C 旧奥谷宿舎を核にした「地域まるごとミュージアム化」「まちづくり」の調査研究</b> ・文化財群、歴史的町並み保全を活かしたミュージアム活動・都市政策・観光政策の各地の事例を収集し、調査研究。島根大学白潟サロンの運営をテストケースにした町づくり実践研究。 ・伝統産業・無形文化財(日本酒、醤油、そば等)を活かした商業活動活性化策の各地の事例を収集して、調査研究。 ・旧奥谷宿舎周辺地域における空き家の実態基礎調査完了。 ・月1回、市内で連続市民講座「島根・温故知新」を開催。その他講演会での講師協力。 ・ヘリテージ・ツーリズムとシニア教育を融合させた「平成出雲塾2009」の企画・講師協力。大学公開授業、出張授業等での「松江町歩き」教育プログラムの開発・実施。 ・大学ミュージアムやイベント等でのパネル展示活動。インターネットを活用したバーチャル展示活動。 ・携帯散策マップ『松江温故知新(橋北版)』『同(橋南版)』の制作・配布。携帯情報端末によるコンテンツ開発・発信。						
<b>6. 配分経費 (単位:千円)</b>						
平成(年度)	21					合計
配分予定額(千円)	2,780					2,780

平成21年度 島根大学「萌芽研究部門」研究プロジェクト 計画書

7. プロジェクト推進担当者 平成21年度に限って記入してください。		計 9 名	
ふりがな(ローマ字) 氏 名(年齢)	所属部局(専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担
(プロジェクトリーダー) えげかずひろ(Ege Kazuhiro) 会下和宏(39)	ミュージアム・准教授	博物館学・学士(文学)	プロジェクトの総括。旧奥谷宿舎に関する調査研究。地域資源を活用したミュージアム活動の実践。
たなかのりお(Tanaka Norio) 田中則雄(45)	法文学部(言語文化学科)・教授	国文学・博士(文学)	文学資料・近代教育資料の発掘・調査研究と資源化の実践。
あしたこういち(Ashida Kouichi) 蘆田耕一(63)	法文学部(言語文化学科)・教授	国文学・文学修士	文学資料・近代教育資料の発掘・調査研究と資源化の実践。
ようぎじゅんいち(Yougi Junichi) 要木純一(48)	法文学部(言語文化学科)・教授	中国文学・文学修士	文学資料・近代教育資料の発掘・調査研究と資源化の実践。
たけながみつお(Takenaga Mitsuo) 竹永三男(58)	法文学部(社会文化学科)・教授	日本史学・博士(文学)	歴史資料の調査研究と資源化の実践
ひろしまきよし(Hiroshima Kiyoshi) 廣嶋清志(64)	法文学部(山陰研究センター)・教授	人口学・工学修士	歴史資料の調査研究と資源化の実践
おびなたかつみ(Obinata Katsumi) 大目方克己(51)	法文学部(社会文化学科)・教授	日本史学・博士(史学)	歴史資料の調査研究と資源化の実践
いのきみお(Ino Kimio) 飯野公央(46)	法文学部(法経学科)・准教授	経済政策・経済学修士	地域資源を活用した「まちづくり」政策の調査研究と実践
さくのひろかず(Sakuno Hirokazu) 作野広和(41)	教育学部(共生社会教育講座)・准教授	人文地理学・修士(文学)	地域資源を活用した「まちづくり」政策の調査研究と実践
<b>8. 研究計画および達成目標</b>			
<p><b>[平成21年度]</b></p> <p><b>[計画概要]</b></p> <p><b>A・B旧制松江高校、歴史・文学資源等の調査研究(i・ミュージアム・コンテンツの蓄積)</b>は、引き続き研究を継続していく。その際、ミュージアム・コンテンツの「素材探し」から、素材を磨き、地域内外に情報発信・普及啓発していくことをより意識して資源化を図る。</p> <p><b>C旧奥谷宿舎を核にした「地域まるごとミュージアム化」「まちづくり」の調査研究(ii・フィールド・ミュージアム化やミュージアム・マネジメントのノウハウ蓄積、iii・アウトプット・実践)</b>は、具体的な計画を策定し、10月から修復を終えた旧奥谷宿舎をコア施設にして、実践活動を展開していく。</p>			
<p><b>【平成20年度評価を踏まえた本年度計画の主な変更点または改善点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト終了時における各研究テーマの到達目標が具体的に分かるように明示した。</li> <li>・プロジェクト全体として取り組む計画を追加した。</li> <li>・旧奥谷宿舎をコア施設とした周辺一帯の「まるごとミュージアム」化を推進していくうえでの具体的な計画を明示した。</li> <li>・行政・地域団体等とより緊密な連携を図ることを意識した。</li> </ul>			
<p><b>【研究項目】</b> 研究項目には①,②,③の様に番号をつけて箇条書きしてください。</p> <p>①初代松江市長・福岡世徳の「公務手帳」全12冊の翻刻と研究。</p> <p>②古写真・古地図等を活用した旧奥谷宿舎周辺地域等の松江市旧市街における新たな歴史・文化・観光資源の発掘・調査・景観復元研究。</p> <p>③旧制松江高校蔵書および足立文庫(いずれも附属図書館蔵)を調査し、旧制松江高校における学問の世界を解明する。</p> <p>④近世・近代の松江・出雲に関係する古典・和</p>		<p><b>【達成目標】</b> 対応する研究項目に対して第三者が本年度に達成できたと判断できる具体的な目標を記入してください。</p> <p>① 松江市制120周年の2009年にあわせて関連史料のデジタル撮影完了、翻刻を推進しその概要を紹介する。研究成果は2010年度に出版。</p> <p>④前年度に引き続き、新出資料を中心に、附属図書館のデジタルアーカイブに蓄積を行う。</p> <p>①～⑦ 各研究成果を論文化するとともに、地域内にある関連スポットと結びつけた市民一般向けの分かりやすいリーフレット・パンフレットを制作する。</p> <p>⑧・旧奥谷宿舎・公共施設等を会場にして、各研究成果(①～⑦)をテーマにした市民講座・講演等を開催する。</p> <p>・旧奥谷宿舎・公共施設等を会場にして、各研究成果(①～⑦)を活</p>	

<p>歌・散文・漢詩文・史料等の収集と電子化・研究。それらにみられる文化人・歴史的人物の業績、松江の人口からみた社会についての研究。</p> <p>⑤文化財群、歴史的町並み保全を活かしたミュージアム活動・都市政策・観光政策の事例研究。</p> <p>⑥伝統産業・無形文化財(日本酒、醤油、そば等)を活かした商業活動活性化策の研究と松江市への政策提言。</p> <p>⑦旧奥谷宿舎周辺地域における空家の利活用(定住促進と商業的利用の可能性)を研究。歴史的市街地における防災安全対策の検討。</p> <p>⑧旧奥谷宿舎・公民館等で展示会・市民講座を開き、各研究成果(①～⑦等)を地域市民に普及啓発。HPによる情報発信。</p> <p>⑨研究により明らかになった歴史・文化資源(①～④等)を素材にし、開発した活用手法・実践活動(⑤⑧等)を用いて「地域まるごとミュージアム」化、旧市街を回遊する町めぐりルート、展示・教育コンテンツの開発を進める。</p> <p>⑩修復後の旧奥谷宿舎を維持管理・活用していく仕組み作りの研究と提言・実践。⑤～⑦と⑨に基づいた旧奥谷宿舎周辺地域の活性化対策の実践。</p>	<p>かした展示会等を開催する。</p> <p>・HP、松江SNS等を活用して情報発信を行う。</p> <p>⑨・研究成果をまとめた市民一般向けリーフレット・パンフレットを、旧奥谷宿舎で配布し、活用する。</p> <p>・研究成果(①～⑦)をもちこんだ町めぐりマップ・リーフレット・パンフレット等を活用して、公開講座、公開授業、ツーリズム等を実践する。</p> <p>・町づくり計画、観光振興ハード・ソフト計画(観光案内板の設置、観光ボランティアの活用等)をデザインし、実現に向けて、行政や地域団体に働きかける。</p> <p>⑩行政や地域と連携しながら、修復を終えた旧奥谷宿舎を「まるごとミュージアム」のコア施設として運営する具体的仕組みを整え、実践していく。</p>
---	---

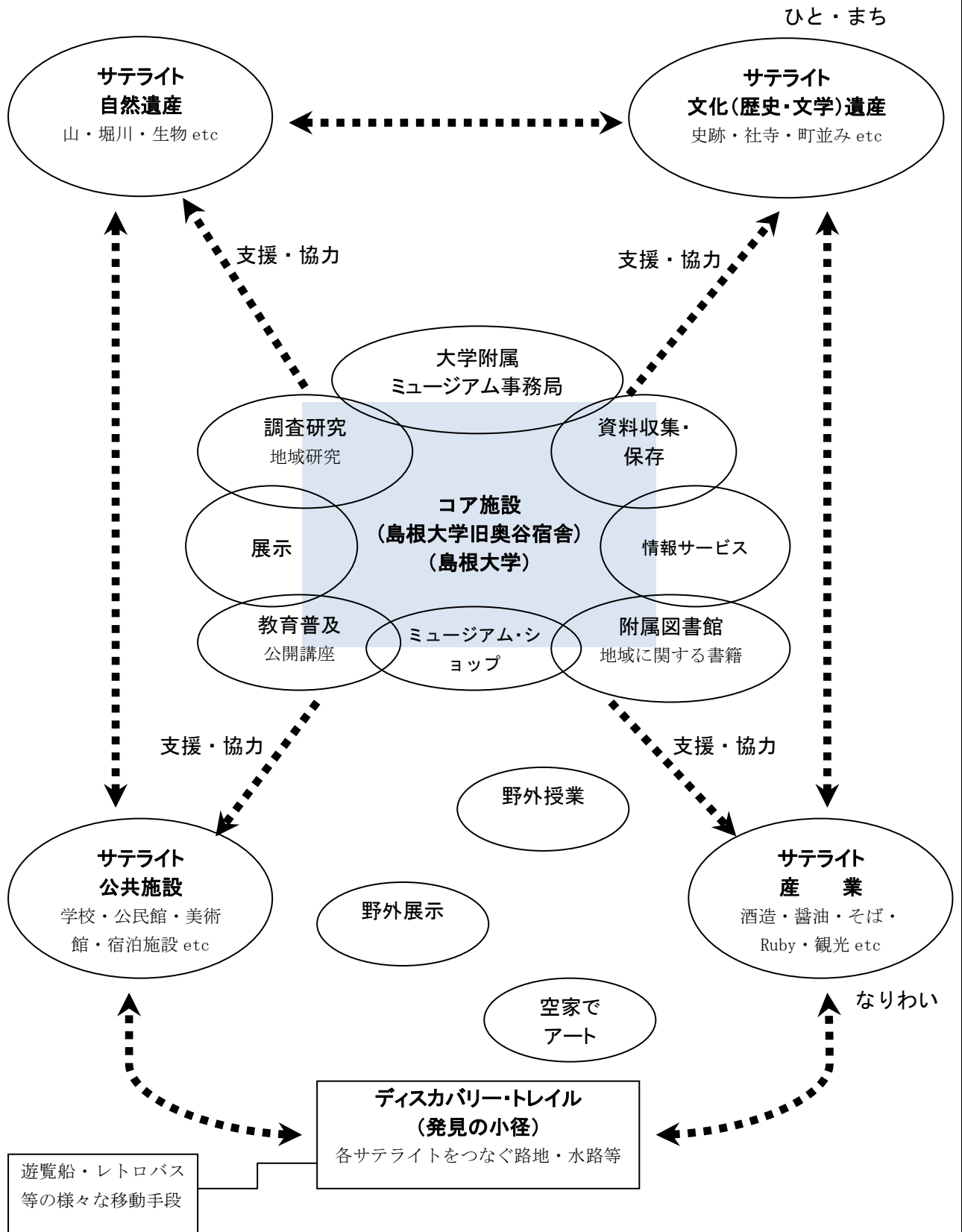
**9. 平成21年度経費明細** 研究項目と達成目標ごとに使用する経費を記入してください。(単位:千円)

- ・経費は本研究プロジェクトの遂行に必要な経費です。
- ・経費は政策的配分経費(a)(今回配分された金額)とそれ以外の資金(学内経費、外部資金)とし、それ以外の資金で充当させる場合は「配分経費以外(b)」の欄に金額を記入してください。
- ・研究計画の項目番号ごとに設備備品、旅費、人件費、消耗品費等に分けて、それぞれの明細を出来るだけ具体的に記入してください。
- ・単品の設備備品は配分経費(a)と配分経費以外(b)を合算して購入することはできませんのでご注意願います。

事項(品名)	(対応する研究項目番号)	配分経費(a)	配分経費以外(b)	合計(a+b)
<b>設備備品</b>				
書籍・資料購入等	①③④⑤⑥⑦	800		800
展示設備等	⑧		250	250
<b>旅費</b>				
島根県内・東京ほか	①③④⑤⑥⑦	400		400
<b>消耗品費</b>				
コピー関連等	①②③④⑤⑥⑦⑧	400		400
<b>人件費</b>				
アルバイト・謝金	①②③④⑤⑥⑦	500		500
<b>その他</b>				
印刷費	①・③④⑤⑥⑦⑧⑨	680	300	980
<b>合計</b>		2,780	550	3,330

**10. 研究終了後の高次研究プロジェクト(重点研究部門)への構想** 図等で解りやすく示してください。

歴史・文化資源を核にしつつ、地域に関わる自然、建築、産業、サイエンス、アートといった有形無形の多様な資源にも視野を広げ、研究開発し、ミュージアムの編集を加えて、より厚みのある幅広い「まるごとミュージアム」化の実践研究を展開していく。「まるごとミュージアム」化の推進によって、「松江」「島根」「島根大学」ブランドの持続的な成長を促し、地域に貢献する。



高次研究プロジェクトによる「まるごとミュージアム」化のイメージ